

消防団長紹介

枚方市消防団 団長 中 作平



枚方市は、大阪府の東北部に位置し、大阪と京都のちょうど中間に位置しています。昭和 22 年に市制が施行され、当時の人口は、4 万人でした。昭和 30 年に津田町と合併して、現在の市域になりました。大阪万博が開催された昭和 45 年には、人口が 20 万人を超え、平成 7 年に 40 万人を超えました。平成 26 年には全国 43 番目となる中核市へ移行し、これまで大阪府が担っている事務（福祉・保健衛生・環境・街づくり等）を住民に身近な市で行うことが出来るようになりました。交通では市西部を京阪電車が京都、大阪を結び、市東部を JR 片町線が東へは木津や関西文化学術研究都市の各地区へ、西へは京橋からは東西線に繋がり北新地、尼崎と結ばれています。また市内を通る幹線道路は市中心部を国道 1 号線（枚方バイパス）が通り、市東部を平成 22 年 3 月に第二京阪道路が全線開通しています。

枚方の地名は古く、日本最古級の文献である古事記、日本書紀、風土記などに登場しています。かつては東海道品川宿から数えて 56 番目の宿場町として栄えた歴史があり、その街並みの風情を活かし毎月第 2 日曜日に枚方宿五六市として約 250 店のお店が並び賑わってます。

その他には七夕伝説やひらかたパーク、5 つの大学、バレーボール V リーグ パナソニックパンサーズの本拠地があります。

枚方市消防団の歴史は昭和 22 年 9 月に 7 分団、定員 400 名をもって発足しました。昭和 30 年には枚方市と津田町との合併により条例定数 560 名に改正されました。

平成 21 年 7 月には組織機構を改革し 4 方面隊制を導入しました。平成 24 年 4 月には、5 方面隊制となり、同年、女性分団を創設しました。現在、1 本部、5 方面隊、11 分団、条例定数 500 名で構成され、消防車両 45 台を有し、常備消防と連携して地域における消防・防災の中核として重要な役割を担っています。

平成 30 年の更新車両から、軽車両では乗組員の安全のため、デッキバン型を配備。また、ガンタイプノズル等を配備し、消防組合と連携強化を図っています。

活動状況は、分団定期訓練、非常時参集訓練、山林火災防ぎょ訓練等の訓練に加えて小学校校区ごとの自主防災訓練指導や年末火災予防特別警戒を実施しています。

令和 2 年及び令和 3 年に大阪府に発令された新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言期間中においては、感染拡大防止のため消防団車両による市民への広報活動を展開しました。

令和 4 年以降は入団促進のために消防団員募集チラシを枚方市独自で作成し、枚方市消防団の活動を多くの方に知っていただくよう、地域でのイベントや防災訓練等で積極的に配布を行っています。

私は、平成 3 年 4 月 1 日に入団、平成 24 年 4 月 1 日に副団長に就任し、平成 31 年 3 月 16 日には消防庁長官表彰（永年勤続功労章）、令和 3 年 4 月 29 日には藍綬褒章を受章、令和 6 年 4 月 1 日に第 10 代消防団長に就任しました。

消防団活動において記憶に残っている出来事として 3 点あります。

冬の消火活動の際、近隣の方が温かいおにぎり、お味噌汁などを差入れしてくれ、心も体も温まりました。

また、消火活動後に帰ろうとすると、他の団員がまだ近辺を歩いており、追加でもう 1 件火災が発生したようで出動したこともありました。

携帯電話が無い黒電話時代は、深夜に消火活動の一報が入れば家族の誰かが起こしてくれ火災現場に駆け付けることがあり、家族皆が消防団活動に協力的だったことも強く記憶に残っています。

これからも、『安全第一・規律と融和と心意気』、この言葉を大切にし、市民から憧れられる消防団を目指し、枚方市の安全・安心に貢献する所存です。